連載小説

まだ遅くない

〈3〉蟻地獄

葉月一郎
え・小西保文

あらすじ　**戸波峻**は新聞社に入社して十年、神戸支局に転勤してきてからもう五年になる。歳月の積み重ねとはうらはらに仕事といったら一体なにが残ったのか――どうしようもないいらだちを感じていた。そんな彼を支局長の**石津**が呼びつけ兵庫製鉄に対する公害キャンペーンを命じた。そのキャンペーンの会議中、**堂本俊夫**という男が戸波を尋ねて来た。労働組合の生産管理の事件で五年越しの裁判の結査、無罪を宣告された男だ。

「新聞は、誤謬の積み重ねである」入社したときの研修で、当時名記者といわれていた大先輩の講師が、いったことばだ。

人間は、しばしば誤ちを犯す。そして、新聞記者も人間である。だから新聞は、つねに、どこかで真実とは食い違った記事を載せているものだ。

講師の話は、戸波が記者生活の年輪を重ねるごとに重くのしかかった。誇張でも偽悪でもないことを、たびたび思い知らされたからである。

だが、あの堂本の無罪判決を伝えた原稿については、絶対の自信がある。ミスなど、あるはずがない。

（むしろ、喜んでもらえると思ったのに……）

いくら考えても、堂本の怒りが理解できない。それが、もどかしい。

突っ立っているだけの戸波が、逆に堂本をもどかしがらせた。噴き出しそうな憎悪をむき出しにして、にじり寄ってきた。

「殺生な。なんで、あんな記事、書いたんや」

まるめて、にぎりしめていた夕刊を鼻先へ突きつける。その手が、小刻みに震えている。

「こ、この記事のおかげで、あんた、わしはクビになったんやで」

「クビ？無罪なのに、なぜ……」
「それが、お節介ちゅうもんや。ええかな。わしは、あんな昔のことはなかったことにして、いまの会社へ再就職さしてもろたんやで。この五年間、労働組合みたいなもんとは、全然、縁のない暮らしをしてたんや。そやのに、あんな古傷、書きたてられたら、何もかもぶちこわしや」
いうなり堂本は、夕刊を二つにちぎって投げ捨てた。まるで心を持っている生きもののように、夕刊が床を転げた。
（そうだったのか）予期せぬ落とし穴だった。
たしかに「書かれるものの身になって書け」というルールを守った。配慮が足りなかったのではない。配慮したからこそ筆をとったのだ。それが裏目に出るなんて…。
やや怒りが鎮まったのだろうか、堂本の口調は愚痴めいてきた。
「夕方、帰りかけたときに事務所へ呼び出されて、頭ごなしにクビの宣告されたんやで」
神経質そうな人事課長が、蛇に似た眼で堂本を射すくめ「夕刊、みたか」と聞いた。
「うちの会社はなあ、こんな組合でガタガタ騒ぐような人間は雇わんことにしとるのや」
「そやから、私は、ここでは何も……」
「なんで君は、会社をだましたんや。前歴をかくして、もぐりこんだんや。いずれそのうち、若い連中ひっぱりこんで組合つくって、ひと暴れしたろと思うとってやろ」
「そんな……私は、絶対に……」
「弁解無用や。とにかく、きょう限りで辞めてもらおか」
解雇――頭から、みるみる血がひいてゆく。
「これ、退職金や」
薄っぺらな封筒が、ポイと放り出された。問答無用。封筒は冷酷に、そう語りかけていた――。
「なあ、記者さん。あんたは勝手に好きなこと書いて給料もろて、それでよろしやろ。そやけど、わしは、女房と、子ども三人かかえて、あしたからどないしたらよろしおまんねん。親子心中でもせい、それをまた書いたる、とでもいうつもりでっか」
一気にまくし立てると、堂本は急にことばを切った。大きく肩で喘ぎながら、穴のあくほど戸波の眼をにらみ据えた。ぎらぎらと、真夏の夕日のように熱っぽい瞳。
（なんということや）
ワナにはまった堂本が怒るのは当然だろう。だが、はからずも、善意がアダになった戸波自身、やりばのない憤りを持て余した。
「申しわけありません」
頭を垂れた。経過はともあれ、結果については、そうせざるを得ないのだ。
「申しわけない？　そ、それで済むと思うとるんか」
予想通りの罵声が飛びかかってきた。
「いえ、とにかく、私の方から、お宅の会社へうかがって、解雇撤回なり、なんらかの善後策を再考するよう申入れます」
それが、まず第一になすべき措置だろう。戸波は、厚い壁に立ち向うおのれを想像しながら答えた。
「いまの会社は、たしか西灘の方でしたね」
「岩屋のな、報徳工業ちゅうとこや。まあ、あんばいしたってや」
報徳工業――あれは、たしか兵庫製鉄の下請けの鋳物工場だったはずだ。
（またしても、兵庫製鉄か）
戦前から地域に幅広く根を張っている大企業である。下請け組織、関連産業、従業員家族……東神戸一帯に、それはクモの巣のように張りめぐらされているに違いない。だから、なにかが起れば、どこかで兵庫製鉄にかかわりが出てくるのは当り前なのかもしれない。
それにしても、と戸波は思う。

これは蟻地獄ではないか。もがけばもがくほど、抜きさしならない泥沼へのめりこんでゆくような予感がしてならない。

戸波の意識は、隣の会議室でキャンペーン企画を練っている支局長たちの方へ走った。

熱気、といえるほどのものではないかもしれない。

しかし、会議室には、それに似た空気が次第に支配しはじめていた。なにか新しいテーマの仕事を始めるとき、きまって記者たちから発散する闘志ともいえた。

「とりあえず、十回ぐらいハコものの連載記事でアピールしていこう」

石津支局長が断定的にいって、記者たちを見回す。

声は低い。低いが、どこか威圧的な響きがこもっている。聞くものによっては、それが信頼感を呼ぶような口調でもある。

「毎回、角度を変えて、兵庫製鉄の公害を斬ってゆく。各回のテーマを、これからみんなで考えてもらいたい」

一番若い松岡記者が手をあげた。

「支局長。なんというても住民のカルテ、つまり、工場の煙のために、どんなに健康をこわしているか、という話がいりますね」

地元の葺合署や灘署を担当しているこの若手は、小まめで精力的な取材ぶりに定評がある。早耳の松ちゃんという異名があるほどだ。

「あの辺は、ぜんそくが多いいうて、刑事たちの間でも評判ですよ」

「うむ。ねらいはいいが、評判だけでは困るんや。直接、住民に一人ひとり当ってみてくれ。医師会からも裏付けをとれよ」

その支局長の指示をはぐらかすように、次長の泉田が異議めいた調子で口を出した。

「医師会の話は鵜呑みするなよ。幹部には会社の息がかかってるのがいるかもしれねえからな」

独得のべらんめえ口調だ。

論客である。ホットな支局長とは対照的に、ひどく冷静な紙面づくりで部下にファンを持っている。

席へもどっていた戸波には、直感があった。（泉田次長は、ひょっとしたら、このキャンペーン企画には消極的なのやなかろうか）

「まあいいや。住民のカルテは、松ちゃん中心に集めてもらおう」
機をみるに敏な男である。泉田は、すかさず指示を出した。
「会社側の対策というか、とにかく今まで公害防止にどんな手を打ってきたか、という話は、どうでしょう」
市役所担当の八木沢記者が、眼鏡を光らせ、一つ一つ考えながら発言した。
的確で、シャープで、しかもひょうひょうとした人柄が仲間に好かれている。
若手の中では一番のホープだと戸波もにらんでいる記者だ。
「うーむ、勿論いるなあ」
メモをとりながら、支局長が肯いた。
「そうや。八木沢君。君はひとつ、社長、工場長ら最高幹部とのインタビューを申込んでおいてくれ」
「社長……ですか」
八木沢は、眼をまるくした。
兵庫製鉄の和久井社長は、エンジニア出身ながら中央財界でも名の通った実力者である。月のうち二十日は東京を舞台に活動しているという話だ。
（あんた忙しい人物を引っぱり出せるわけがない。第一、公害問題で社長が地元記者に会うなんて、前例がないじゃないか）
戸波は、八木沢以上に驚いていた。
明らかに、それは〝暴挙〟であろう。だが、一見むこうみずな計画の中に、支局長の意欲をみた気がした。
「一応、広報を通じて申入れます」
八木沢も同じ想いだったのか、眉のあたりに微かな緊張を漂わせて返事している。
社長への申入れは、毎朝新聞神戸支局が、兵庫製鉄を相手に一戦まじえようという、いわば挑戦状の役割を果たすはずだ。
（歯車は、回りはじめた）
戸波は、その音を海鳴りのように聞いた。自分の立っている砂浜が、みるみる浸蝕されてゆくような危なっかしさも意識せざるを得ない。
「戸波君」
とどめを刺すような、支局長の声が届いた。
「社長が会見に応じたら、おれと君と、それに八木沢、この三人が出かけて取材しよう。わかったかい」
相変らず、低くて、威圧的な調子である。
（おれは、ご免だな。第一、むこうさんだって、出て来ることはないさ）心が冷えてゆく。
あいまいに肯きながら、戸波は泉田次長（デスク）の方へ視線をやった。
泉田は、はれぼったい眼を一瞬光らせたが、表情は動かさない。どんなときにも姿勢を崩さず、ハメを外さず、枠の中で正確に職務を遂行してゆく優等生次長（デスク）のポーズが、そこにあった。
支局長は、自分の責任のもとに、情熱の赴くままにキャンペーンをやるがいい。
次長（デスク）は、それを補佐し、支局内をまとめ、大過なく、仕事を進めるだろう。
そして、おれは――戸波は、そこまで考えて、一人ひとりの記者たちの表情へ視線を流した。
思慮深い八木沢、突撃型の松岡、遊軍の海野も、教育担当の木曽も、みんな〝あす〟がある新鋭だ。いずれ、二、三年でこの神戸をあとにして巣立っていくだろう。東京の政治部か、大阪の社会部か、輝かしいスター記者たり得る未来が待っているはずだ。
（それにひきかえ、このおれは……）
七年前の戸波は、八木沢たちと同じような若手のホープであった。金沢支局から直接、大阪本社の社会部員に抜擢されたが、仲間たちは誰もが当然のことと受取ったほどだ。
優（すぐ）れた書き手集団の社会部でも、彼はめきめき頭角をあらわした。

思わぬワナに落ちこんだのは、二年半もたってからのことである。

タクシーの冷房料金をめぐる陸運局汚職事件を担当したとき、事件に関係した地元選出の代議士の談話を取材した。その代議士は、タクシー協会の幹部から酒食のもてなしを受け、現金百万円を受取って便宜をはかったという疑惑が持たれていた。

戸波の訪問を受けた代議士は、突き出た腹をたたいて、こう語ったのである。

「タクシー協会？　ああ、あの連中と飲み食いしたよ。赤坂でも、西銀座でも。回数は覚えてないな。支払い？　うーん、そりゃ、キミ、持ちつ、持たれつ、いうことにしといくてれたまえ」

カネの受け渡しは否定したが、供応については事実を認めたことになる。

当然、それは大きな記事になった。

代議士から激しい抗議がきた。そんな発言は、いっさいしていない、と頭から否定してきたのだ。

テープにこそとっていないが、メモは残っている。反論にも自信があった。

しかし、抗議は執拗だった。全文訂正要求を求めてきた。

軽い気持でしゃべる。記事になる。反響が、当人の思っていた以上に大きい。非難が集まる。組織の内部では、突き上げを食う。

こんなとき、「あんなこと言った覚えはない」と、責任を新聞に押しつけてしまうことは、よくある図式なのだ。

水掛論になった。しかし相手は代議士である。ことは、こじれた。

さすがに訂正は出なかったが、結局、戸波は社会部を追われた。

「神戸支局員トスル」

その辞令は、刑の判決文に似ていた。

いいようのない挫折感が、いつまでも戸波を襲った。妻が離れてゆき、仕事への意欲も空洞化するばかりだった。

兵庫製鉄の公害キャンペーンは、そんな彼の鼻先へ突きつけられた踏絵ともいえた。

（参加するか、逃げるか。逃げることは、ペンの世界からの脱落を意味するんだよ）

支局長の眼が、そう語っているようにもみえた。

報徳工業の社屋は意外にスマートなビルであった。裏手が工場になっているらしく、独得の臭気が流れている。二日つづいた雨も上がって、社屋はまぶしいほどの白さだった。受付へ行くと、戸波は名刺を出した。

「社長か人事の責任者にお会いしたい」

若い女の子が、びっくりしたような瞳で、名刺と戸波を見比べ、急ぎ足で奥へ消えた。

その受付の娘と話しこんでいた女が、待ちかねたように立上がった。二十四、五歳だろうか、透明に近い肌の白さが印象を濃くした。

「あのう――」

遠慮がちな声だったが、眼は灼きつくように戸波をみつめている。

「先日は、本当にありがとうございました。おかげさまで、助かりました」

そういうと深く頭を垂れた。長い髪が、揺れながら肩の上を流れた。戸波には記憶がない。初対面としか思えない。助かったとは、どういうことなのか。

「失礼ですが、どなたでしたか」

女は、少し恥じらいの色を眼元に浮かべた。そして、ひと息ためらってから名乗った。

「私、兵庫製鉄の秘書課につとめています細川亜紀子と申します」

またも、女の視線が一直線に戸波の頬を刺した。瞳が、黒耀石のように、キラキラと輝いている。（つづく）

DRINKING

スナック

阿羅仁

生田区中山手通1丁目81中一東ビル1F
☎391-0865

三宮の雑踏を離れた閑静な山手にスナック〝阿羅仁〟（アラジン）がある。重厚さを感じさせる木による店の造りは落着いた雰囲気をかもし出し、ゆったりとくつろげる。カウンターの正面は、くすんだレンガ造りの洋酒棚。奥にはアンティックな大時計が……。阿羅仁の自慢は熱物が出せること。湯ドウフ（500円）、うどん（500円）、そば（500円）などこれからの季節にピッタリ。冬の夜、手づくりの熱物を食しながらグラスを傾けてみてはいかがですか。

ボトル　¥6000、水割り（オールド）　¥450
ビール　¥350、つき出し　¥300
営業時間　6：00PM～2：00AM　日曜日休み

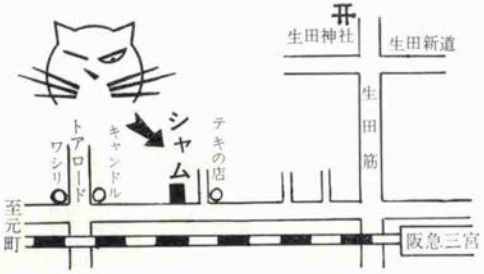
スナック

シャム

生田区北長狭通2丁目（サンセット通山側洋酒天国傍）☎331-7641

軽い音楽と白い壁が印象的なお店、それがスナック〝シャム〟です。階段を下りるとそこは〝シャム〟のステキなスペース。カウンターの前に腰をかけると、鏡の前の洋酒棚がにぶく輝き、シャレた置物とともに、イキな店だなあと感じられます。奥にはこじんまりとしたボックス席もありますのでグループでくつろがれる向きに便利です。一度こられたら、きっと、シャム猫のようにキュートな女性のとりこになります。

ボトル　¥6000、水割り（オールド）　¥450
ビール　¥350、つき出し　¥300、小鉢　¥400
営業時間　6：00PM～1：00AM　日曜日休み



連載小説〈46〉

曲線ハイウエイ

武田繁太郎
え・横塚繁

〔あらすじ〕　東名高速サービスエリアで多木洋介は神戸の女性宇津康子と知合い、逢瀬を重ねるうちに康子にひかれていった。ある日友人岡本和彦と共に神戸へきた多木は康子に会えず、彼女の面影に似た辰野英子を紹介され、六甲山へドライブに出かけた。ロマンティックな情景に誘われて英子を抱きしめた多木の胸に、初めて感じるいとおしさがつのり、その夜二人は愛しあって別れた。

そんな時突如として康子から電話があり、多木と康子は二人の愛を確かめあった。翌朝、風のように去っていった康子を追い神戸にきた筈の多木は、岡本の早呑み込みと神戸の雰囲気の中で英子を捜している自分に気付いた。英子をみつけた多木は淡路島へのドライブに出かけたが、その帰りに中年の男と寄りそって歩いている康子を目撃した。その衝撃を負って帰京した多木のもとに康子からの屈託のない電話が入った。十日間の休暇をえた多木は、北海道へのドライブに康子と出かけ、札幌から海岸沿いの国道を通り、さいはての村島牧に向った。その村は、難病にかかった象の花子が温泉で闘病していることで、かつて新聞に報道されたことがあった。

島牧についた二人は、花子を見舞い花子の世話をしているS氏と親しくなった。S氏を招いて夕食を共にし、動物談議から愛と性へと話は発展した。二泊して二人は帰京した。帰京した多木に英子から電話があり、東京へ遊びにいくという。OKした多木は、新幹線東京駅まで出迎えた。その夜、英子が持ってきた神戸肉でスキヤキをし、多木は久しぶりに家庭のあたたかさを思い出していた。

ふっと、多木は、奇妙な錯覚におちた。いや、錯覚だと感じたのは、彼自身の錯覚であって、それは、かつて彼が経験したことのある、なつかしい思い出につながっていた。

いまは天涯孤独の身である多木にも、以前は母もいたし、兄もいた。父親は早くに亡くなっていたが、母や兄が生きていたころは、多木の一家にも、ささやかながら

も、平和で幸福な家庭の団欒があった。母子三人して、けんめいに黙しつづけていた明るい家庭の灯があった。

母も兄も、心のやさしい人たちであった。末っ子の多木は、この二人の肉親から、あふれるほどの愛情をそそがれて、子供時代をすごした。

兄はプロのレーサーになったが、多木は、そんな兄にあこがれていた。多木にとって、兄は現代の最高の英雄であり、最高の誇りでもあった。彼がクルマ好きになったのも、むろん、この兄の影響である。

兄がレースで優勝した夜、その優勝を祝って、多木母子は、よく自宅ですき焼きパーティをひらいた。プロ・レーサーらしく、兄の交際は華かだったが、そんな夜は、だれよりも母と弟に祝福されることをよろこんだ。

母は、吉祥寺の駅前のマーケットから、どっさりと牛肉を買いこんできた。若い兄や多木は、肉には目がなかった。

「さあ。今夜はお祝いだから、うんとおあがり」

母は、鍋に牛肉や野菜をいれるのにいそがしい。

「洋介。いつもはこんなに肉は食えんぞ。今夜は腹いっぱい食え」

兄は、自分は水割りで祝盃をあげながら、上機嫌で言う。

「ほら。この辺のお肉、もう煮えてるわよ」と、母も、長い菜箸を使いながら言う。

「うむ」

多木は、ほどよく煮えた牛肉をたっぷりと卵につけて、頬ばる。うまい。頬がおちるほどうまかった。

いま思いかえしても、思わず生唾をのみこむほどである。だが、そのうまさは、ただ牛肉だけのうまさではない。それは、母と兄の愛情で味付けされたうまさだったように思えてならぬのである。

多木は食った。まるで多木のためにひらかれたすき焼きパーティだったように、多木は食った。

「ああ。もう動けん」

多木は、ズボンのベルトをゆるめ、ふくらんだ腹をさすりながら、ごろんと寝転ろがってしまった。

「こら。だらしがねえぞ。まだデザートがのこってるじゃないか」

兄は、目をほそめて、のびている弟をながめている。

だが、多木はもう返事もできなかった。ただわけもなく、彼はたのしかった。彼は幸福の絶頂にいた。

歳月の流れを越えて、あの母と兄と自分との一家の団欒が、いま、英子と自分とのあいだに再現している。おなじすき焼きの鍋をつつきあいながら、二人はもう結婚した夫婦のように、たがいの心をかよいあわせている。そこには、まぎれもなく、家庭のやすらぎがあった。

むろん、多木自身も、それが錯覚であることに気づいていた。だが、錯覚を現実のものにかえることも不可能ではない。

多木は、この娘なら、結婚しても、きっといい妻になるだろうと思う。現代の青年にとっては、理想的な妻のタイプだといってもいい。

もし、多木が、

「結婚しよう」

と言いだせば、英子はどう答えるだろうか。おそらく、彼女のほうでも、多木のプロポーズに応じてくれるだろう。

だが、そのとき、英子は、こんな言葉でこたえてくるだろう。

「そうね。あなたが大学を卒えたら。あなたがほんとうにあたしと結婚してもいいと思ってくださるなら、あたし、あなたが大学を卒えるまで、待っているわ」

そこでまた、多木の空想は、うち砕かれていた。

いまの多木には、大学をでる意志など、もうまったくなかった。講義にも、ほとんど顔をだしてはいない。彼が大学に籍をおいているのは、思いきって退学する動機がないというだけのことであった。

彼は、いつ大学をやめてもよかった。きょうやめても

悔いはない。彼は学業の意志を放棄していた。そんな彼でも、一人前の学生扱いにしている大学当局の在り方に、多木は、愛想をつかしていた。だから、ますます多木は大学からとおざかっていた。

ここで、もし母や兄が生きていたら、多木も、こんな気持ちにはなっていなかっただろう。彼も、人並みに大学にかよい、人並みに大学をでて、平凡でも、サラリーマンのコースをすすむつもりになっていたにちがいなかった。

彼にそそがれた母と兄の愛情がふかかっただけ、この二人の肉親の死で、彼がうけたショックは、それだけふかかった。その後の彼の生き方を、根こそぎ狂わしてしまったといっていい。

だが、もし多木が、なんとか大学だけはでておこうと

いう気持ちを持っていたとしても、経済的な面からも、それは実現できぬことであった。

母が遺してくれたカネは、もう残りすくなになっていた。このカネを使いはたしてしまえば、彼の手許に残るのは、コーポの権利金ぐらいのものである。だが、その権利を売れば、彼は、その日から野宿でもしなければならなくなる。

多木は、むろん、バイトもしてはいない。その気になって、月のうち三十日間、バイトに精をだせば、彼でも六、七万円は稼ぐことができる。そのカネで、なんとか暮していけたとしても、現在のようなコーポに住んでいることはできない。だが、多木は、このコーポからでようという気持ちは、まったくなかった。

残りすくなになったカネは、毎日、確実な速度で、零にちかづいていた。多木は、その速度にブレーキをかけるどころか、自分のほうから速度をあげて、零にちかづいていた。

その零が、現実のものとなったとき、多木は、どうするつもりでいるのか。いよいよバイトでもして生きていくつもりなのか。彼は、はっきりと首をよこにふっていた。

「そのときは、そのときのことさ」

というのが、多木の自分にたいする回答だった。

もし結婚するなら、この英子のような娘がいい。多木はそう思う。宇津康子のような女は、結婚の対象としては考えられない。妻のイメージとして浮びあがってくるのは、やはり、英子だった。いまの多木には、英子以外には考えられなかった。

だが、それは、どこまでも仮定としての問題であった。多木の空想にすぎなかった。彼は、口にだして、英子に求婚する気持ちはなかった。

それにしても、英子がかもしだしてくれるこの好ましい雰囲気は、文句なしに、多木の身にしみわたっていた。

「ああ、うまかった！」

すき焼きの夕食をおえたとき、多木は、かつてのあのすき焼きパーティのときとおなじように、ふくらんだ腹をさすりながら、芯から満ちたりたような声で言った。

「ひさしぶりだよ。ほんとうにひさしぶりに、あたたかい家庭の味をたんのうさせてもらったよ」

「そお。そりゃよかったわ」

英子も満足そうな表情で言った。

「多木さん、独り暮しでしょう。だから、お土産に、こうしてすき焼きのお肉を持っていったら、きっとよろこんでもらえると思ったのよ。やっぱり、お肉持ってきて、よかったわ」

万事によく気のつく娘だった。

「君の慧眼どおりだよ。おかげで、君のペースにまきこまれたように、つい、妙なことを考えてしまったよ」

「どんなこと?」

「いや。そりゃ、ちょっと照れくさくて、言えないな。それよりも、君、食後の散歩に、となりの吉祥寺へでかけようよ」

多木は、話題をかえた。この好ましい雰囲気に、これ以上溺れこんでしまうことのこわさを、多木は感じはじめていた。

「吉祥寺って、どんな街なの?」

英子は、小首をかしげてきいた。

「三寺ってね、中央沿線には、三つの新しい若者の街ができつつあるんだ。新宿は、すっかりサラリーマンの街になってしまって、もうかつての若者の街じゃなくなった。だから、若者は、新宿を見捨てて、この三寺にあつまってきつつあるんだよ」

「三寺って、どういう意味?」

「高円寺、吉祥寺、国分寺。みんな寺がついているだろう。なかでも、吉祥寺が中心で、若者は、ジョウジと呼んでいる。ジョウジは、いまやフォーク、ジャズ、ロックのメッカみたいになっているんだよ」

多木も言うように、数年まえまでは、なんの変哲もない中央沿線の街だった吉祥寺は、いまでは、若々しいバイタリティにあふれた若者の街として、一大変貌をとげつつあった。そのジョウジを、英子にみせたいというのであった。

（つづく）

〈神戸の催し物12月ご案内〉

〈音楽〉

★五木　ひろしショー
12月9日（日）　①PM2：00〜4：00　②PM6：00〜8：00
神戸国際会館　民音　¥1,100

★浪曲大会
12月10日（月）PM5：00〜9：00　神戸文化ホール　¥1,000

★アダモ
12月10日（月）PM6：30〜8：30　神戸国際会館　民音
一般券　A¥2,700　B¥2,200

★'73兵庫県芸術祭——ベートーヴェン第九交響曲の夕べ
12月15日（土）PM 6：30〜9：00 神戸国際会館 A¥1,500
B¥1,200　C¥800　指揮／朝比奈隆　演奏／大阪フィル

★WIDE WIDE JAZZ——KOBE JAZZ FESTIVAL
12月15日（土）PM5：00〜9：00、16日（日）PM 1：30〜6：00　神戸文化ホール　前売指定席　¥1,500　自由席　¥1,200　当日指定席　¥2,000　自由席¥1,500

★ニニ・ロッソ
12月18日（火）PM6：30〜9：00　神戸国際会館　A¥2,400
B¥2,000　C¥1,700

★シモンズ・シュリークス
12月19日（水）PM6：00〜9：00　神戸国際会館　労音
会員券

★クリスマス・チャリティ・コンサート
12月19日（水）PM6：00〜8：30　神戸文化ホール　一般
¥400　高校生以下　¥300

★クリスマス・チャリティ・コンサート"宮本慶子マリンバ独奏会"
12月21日（金）PM6：30〜8：30　神戸文化ホール　一般
¥700　学生¥500

★アグネス・チャン——神戸初公演
12月22日（土）①PM2：00〜4：00　②PM5：00〜7：00
神戸国際会館　S¥1,500　A¥1,300　B¥1,000　C¥600

★ロストシティオンステージ
12月23日（日）PM1：00〜6：00　神戸国際会館　前売券
¥1,000　当日券¥1,200　全館自由席

★ボートジュビリー・クリスマスコンサート
12月25日（火）PM1：00〜4：00　神戸国際会館　¥350

★あなたと私の音楽会——チューリップがやってきた!!
12月27日（木）PM6：30〜9：00　神戸文化ホール　¥800

★ダーク・ダックス——
恒例年末コンサート
12月27日（木）PM6：30〜8：30 神戸国際会館　A¥1,400　B¥1,000　C¥900　S¥1,600　全館指定席

歌うダーク・ダックス

〈演劇〉

★児童劇「あふりかのたいこ」
12月1日（土）AM10：30〜12：00　神戸文化ホール　¥300

★はぐるま座講演会「赤い折鶴」「美枝子の仲間たち」
12月3日（月）PM6：30〜　神戸文化ホール　一般　¥700
学生　¥500

★青年座「三文オペラ」
12月6日（木）、7日（金）、10日（月）、11日（火）、12日（水）PM6：15〜9：00　9日（日）PM1：30〜4：15
神戸文化ホール　¥990

★劇団かっぱ座ぬいぐるみ人形劇「白雪姫」
12月13日（木）①AM10：30〜　②PM2：30〜　③PM6：30〜　神戸文化ホール　大人¥1,200　小人¥600

〈その他〉

★花柳松秀舞踊会
12月16日（日）AM11：00〜PM9：00神戸国際会館¥1,000

愛読者サロン

★「神戸っ子」の愛読者仲間のみなさん、後1カ月たらずで新年ですね。今、私は神戸港を見おろせる白亜のティールームでラブソングの流れに酔いしれながら、このおハガキを書いてるんですよ。エッ、うらやましいですって。ところが、私には恋人がいないんです。来年こそは、すてきなカレにめぐり会えると信じているんですが、ダメかなあ。

「神戸っ子」さん――、恋人紹介なんか載せてくれないかなあ。

（生田区しの原町子）

★私は、神戸っ子を毎月楽しみにしている美少年であります。（写真は送らないから想像してくらはい。）

パントマイム・ジュンズと終りのページの編集後記と愛読者サロンを愛読？しております。

このページ、ヒジョウに面白いね自己満足をも得られるし。

（苔合区　亜乱土論）

★秋、なんとなくサミシイ季節になりなんかウキウキしてきたり、雪よ降れ、はやく降れ！なんてさけびたくなったり、読みかけの本のことを急に思い出したり、友人に会いたくなったり、いろんなことがいっぺんに頭の中に浮んでは消え浮んでは消え。情緒不安定、狂人の一歩手前まで来てしまったような、変な季節になりました。

神戸っ子のみなさん、これからどんどん寒くなります。カゼ！いやネ！がんばりあるのみ。

ひさしぶりに港に行こうかなァ。

（東灘区　ワダワダダ）

★「神戸っ子」11月号ありがとうございました。久しぶりに阪口先生の語りくちに接して嬉しく思いました。外大に10年間いっしょにいましたものですから。

（東灘区　田中国夫）

発行にいろいろお世話いただいた方がた

安部正夫
朝比奈隆
青木重雄
砂野豊彦
乾信一
石野成明
榎並正一
牛尾吉朗
岡崎真造
小曽根真一
大淵ツトム
金井元彦
嘉納正治
嘉納毅一
柏井健一
小磯良平
小林芳夫
小泉徳一
小林秀雄
上林英一
後藤末二
古林喜楽
坂井時忠
阪本勝
雀部昌之介
白川渥
新谷秀雄
塩路義孝
砂田重民
竹中猛夫
角南
滝川勝
滝川清二
竹馬準之助
外島健吉
直木太一郎
西脇親弘
中巻勝
難波圭三
南部還
野沢幸二郎
畑水惣一郎
深井冨芳
福高男美
松崎辰雄
宮地襄二
宮崎正二郎
村上雄
百崎定正
元永哉女
吉田
玉井
津高和
中宮健一郎
川虎操
勝彦
清郁
二夫
猛
重
義
秀
孝
雄
渥
昌
之
介
勝
忠
楽
二
末
藤
林
英
一
雄
吉
健
太
郎
親
弘
勝
圭
三
還
幸
二
郎
専
一
郎
吉
芳
美
男
雄
襄
二
正
二
郎
雄
正
女
行
青
神戸青年会議所

編集後記

★一九七三年の編集を終えて、物価上昇、資材不足の社会状勢が、色んな面で押しよせた年だったと身につまされた。来年はもっと深刻になるかもしれないが、物を大切にというよう時代がよみがえることはかえっていいことだと思う。来年も、ミニコミらしい、神戸に徹した本づくりを続けたい。

（小泉康夫）

★神戸っ子の十二年目が終った。壊われてゆく異人館。遮断される坂道。埋れてゆく海。神戸の街の中で人間らしい息づかいができるように、十三年目は確かな、地についた〝眼〟を持ってゆきたいと思う。

（小泉美喜子）

★雨にもまけず、風にもまけず……二年間毎月裏六甲を取材して歩いた「北神戸をゆく」は今回で終ります一度も欠かさずご同行いただいた黒部亨氏、カメラマンの藤原君に心から感謝いたします。来年もいい年でありますように――。（橋本　明）

★年が過ぎて行く。深夜、耳をそばだてていると、ヒタ、ヒタ、ヒタと足音が遠ざかる。ホラ、もう行ってしまった。取り残されたボクは独りぼっちで膝をかかえる――。（S）

★衛切れのいい東京弁の笹沢先生とやわらかい関西弁の陳先生の対談をカセットテープでお聞かせできないのが残念です。カセット付きの「神戸っ子」というナウな雑誌を来年は企画しております？（西口恵子）

★銀クジラ殿にはロヒゲが二本あったのです。いとしの飛行船によりやっとお目通りかない、空に遊ぶお姿も二度三度見かけたと思いきや、近近神戸を旅立たれるとか。袖にされた私めのあだ恋心。（井上久代）

★一年間続いた黒い表紙も今月で終わり、四年間もセカンドカヴァーを描いて下さった中西勝先生の「私は外へ出てみた」も最終回を迎えました。来年はどんな顔をした〝神戸っ子〟になるのかな？（中村雅子）

神戸っ子ごあんない

★月刊神戸っ子を毎月お読みになりたい皆さま、また神戸を離れているお友達に、神戸の香りをおとどけになりたい方は、編集室あてにお申込み下さい。さっそくお送りします。

6カ月分　一二〇〇円
1年分　二四〇〇円（送料共）

★月刊神戸っ子に紹介されている神戸の銘店には、お客さまへのサービスとして神戸っ子がおかれています

★月刊神戸っ子をお買求めの時には左の本屋さんへどうぞ。

コウベブックス　さんちかタウン
ニュー漢口　京町筋
漢口堂　湊川商店街
流泉書房　センター街
文洋堂　新聞会館1階
日東館　大丸前
海文堂　元町通3丁目
文堂　元町通5丁目
宝南文堂　国鉄本山駅北口
甲原光文堂　国鉄住吉駅北口
小林書房　新開地本通り
隆司堂　垂水銀座通り
文進堂書店　明石市桜町
神村書林　板宿バス停前
神戸書林　長田・神戸デパート前
秋田百文堂　阪急六甲駅2階
南天荘　苔合区布引町4丁目
ランプ書房

★月刊神戸っ子に広告を掲載ご希望の方は編集室へお申し込み下さい。

★神戸百店会の事務局は月刊神戸っ子編集室内にあります。

★発行／神戸っ子NO・152
48年12月1日
★編集・発行／小泉康夫
★発行所・神戸っ子編集室
神戸市生田区東町113の1
大神ビル8階
振替口座　神戸四五一九六
☎(331)2246(代)
頒価200円

神戸のうまいもんとドリンキング

★日本料理

阿なご寿司　**青辰**
神戸市生田区元町通3－184
TEL 331－3435

讃岐名代うどん　**あこや亭**
神戸市葺合区旗塚通7－5　TEL 231－6300
トアロード店　TEL 391－2538
兵庫駅前店　TEL 575－5306

和食　**くれない**
三宮生田新道浜側中央KCBビル2F　TEL 331－0494

かっぽう　**花くま**
神戸市生田区花隅町45
TEL 341－0240

鍋もの・おむすび　お茶漬・がばた　**悟味酉**
神戸市生田区北長狭通1の20　TEL331－3848
三宮さんちかタウン　TEL391－5319

お茶漬・おむすび　鍋もの　**ふる里**
神戸市生田区北長狭通2の1
TEL 331－5535

たこ焼　**たちばな**
三宮センター街(旧柳筋)　TEL 331－0572

北海道郷土料理　**蝦夷**
神戸市生田区中山手通1丁目115
生田区東門筋東門会館ビル1階
TEL331－7770

★西洋料理

レストラン　ティーパーラー　**アポロン**
神戸市葺合区八幡通5丁目6
TEL 251－3231

レストラン　**皮〈あらかわ〉**
神戸市生田区中山手2－9
TEL221－8547・231－3315

GALLERY & STEAK HOUSE　**SAN－MON 三門**
神戸市生田区中山手通二丁目98ノ99
TEL 331－5817

ステーキハウス　**れんが亭**
神戸市生田区下山手通2丁目34
TEL 331－7168

レストラン　**セントジョージ**
神戸市生田区北野町1丁目130
TEL 242－1234

メキシコ小料理亭　**ティファーナ**
神戸市生田区中山手通1丁目4ノ12　パールコーポラスビル1F
TEL 242－0043

レストラン　**男爵**
神戸市生田区中山手1－18
山手第一ビル1F　TEL 241－0778

maison de la mode　**花屋敷**
三宮フラワーロード市役所前
TEL 251－2109

鉄板グリル　**きゃんどる**
神戸市生田区北長狭通2－22
TEL 331－1183

レストラン　**キングスアームス**
神戸市葺合区磯辺通4－61
TEL 221－3774

居酒屋風れすとらん　**井戸のある家**
生田新道新世紀南
TEL 331－5664

レストラン　**ムーンライト**
三宮・生田新道
TEL 331－9554

串かつ店　**和蘭陀屋**
三宮相互タクシー北入
TEL 321－0230

グリル・鉄板焼　**月**
神戸市生田区北長狭通1－24
生田神社前　TEL 331－2509

BARBECUE & STEAK　**六段**
生田区元町通3丁目
TEL 331－2108

イタリア料理　**ドンナロイヤ**
神戸市生田区明石町32
明海ビル地階　TEL 331－7158

レストラン　**ハイウェイ**
神戸市生田区下山手2－20
TEL 331－7622

ピッツアハウス　**ピノッキオ**
神戸市生田区中山手2－101
TEL 331－3545

レストラン　**フック東店**
神戸市生田区栄町1－5－3
TEL 321－3207

ピザ&スパゲティ　**ガルの店**
葺合区琴緒町5丁目1－7
西山ビル1F　TEL241－9025

レストラン　**ミリオナークラブ**
生田区山本通2丁目50の2
レストラン　231－9393～5
メンバーズ　221－1162

フラメンコの店　**エル・ヴィノ**
神戸市生田区北野町3丁目48　アニルドマンション1F
TEL 241－1344

フォークウエスタン　**ローストシティ**
神戸市生田区三宮町3丁目22
TEL 331－3770

★喫茶

宮水のコーヒー　**にしむら珈琲店**
中山手店・神戸市生田区中山手通1丁目70
TEL 221－1872・231－9524
センター街店・神戸市生田区三宮町2丁目35
TEL 391－0669

modern Jazz & Coffee　**さりげなく**
生田区北長狭2－22　TEL 331－9762

喫茶・レストラン　**バロン**
神戸三宮サンプラザ地下　TEL 391－1758
トアロード店　TEL 391－1210

喫茶　**ガーディニア**
神戸市生田区東町113－1　大神ビル1F
TEL 321－5114

珈琲　**モーツアルト**
神戸市生田区山本通2丁目98グランドマンション1F
TEL 241－3961

★club

くらぶ　**阿以子**
神戸市生田区中山手2丁目89
TEL 331－6069

club　**飛鳥**
神戸市生田区中山手1丁目117
TEL 331－7627

エドワーズ倶楽部
神戸市生田区北長狭通1丁目28
ホワイトローズビル5・6F　生田新道　TEL 391－3300

club　**小万**
神戸市生田区東門筋中島ビル3F
TEL 391－0638・4386

club　**さち**
神戸市生田区中山手通2丁目75
TEL 331－7120

クラブ　**佐久間**
神戸市生田区東門筋ビウスタウンビル3F
TEL. 321－2226～7

クラブ　**千**
神戸市生田区下山手通り2丁目21
TEL 391－1077

洋酒肆　**仏蘭西屋**
三宮生田新道相互タクシー北入る
TEL 321－0230

club　**なぎさ**
神戸市生田区北長狭通2の1　TEL 331－8626

club　**蕗〈ふき〉**
神戸市生田区下山手通2丁目　TEL 391－1515

くらぶ　**ぶーげん**
三宮生田新道浜側中央KCBビル5F
TEL 331－8593

club BAR　**Moon Light**
BAR　TEL 331－0886・391－2696
Club　TEL 331－0157

クラブ　**るふらん**
神戸市生田区北長狭通1丁目53　TEL 331－2854

クラブ　**佐久間**
神戸市生田区下山手通1丁目5　ゼウスタウンビル3F
TEL 321－2226～7

★STAND & SNACK

スタンド　**英国屋**
生田区下山手通2－6　相互タクシー横
TEL 331－1100・331－6600

スナック　**エルソタノ**
神戸市生田区下山手通　TEL 331－6620

スタンド　**グラムール**
生田筋岸ビル地階　TEL 331－4637

SNACK　**MATSUMOTO**
神戸市生田区中山手通1丁目32ノ3
曽根ビル1F　TEL 241－5470

カクテルラウンジ　**サヴォイ**
高架山側　テキの店北
TEL 331－2615

スタンド　**さりげなく**
生田区下山手通2丁目31
生田筋上高地西入る　TEL 331－3714

洋酒ハウス　**雑貨屋**
神戸市生田区下山手通2丁目
PHONE　078－321－0860

スナック　**ビジービー**
神戸市生田区中山手2丁目
TEL 391－4582

居酒屋　**ボルドー**
生田新道浜側中央KCBビルB1F
TEL 331－3575

スナック　**シーザー**
生田神社西門伊藤ビル地下
TEL 331－1429

洋酒の店　**キャンティ**
神戸市生田区北長狭通2丁目3
TEL 391－3060・391－3010

スープとパン店　**キャンティ北店**
神戸市生田区下山手通3丁目8－9　TEL 331－3661

DRINK SNACK　**スネカジリッ子**
神戸市生田区下山手通2丁目
永晃ビルB1　TEL 391－8708

Stand&Snack　ティー&ドリンク　**サントノーレ**
生田区下山手通2丁目トア・ロード
TEL 391－3822

素香洞　**でっさん**
神戸市生田区北長狭通1丁目源平寿司3階
TEL 331－6778

STAND　**アトラス**
生田区中山手通1丁目95
TEL 331－5433

バイキング風居酒屋　**ゴックスタッド〈GOKSTAD〉**
生田区山本通3丁目18　回教寺院前
TEL 242－0131

スナック　**GASTRO**
神戸市生田区中山手通3－20
トーアマンション　TEL 231－0723

スタンド　**クラブ・ガーデニア**
神戸市生田区中山手通1丁目115
東門筋中島ビル2F　TEL 391－3329

SNACK　**山の手**
神戸市生田区中山手通1丁目
ソネビル1F　TEL 221－3637

淳子の店　**娑羅(SARA)**
生田区中山手1丁目91
TEL 391－1647

サロン　**アルバトロス**
生田区中山手通り1丁目24の7
大和ナイトプラザ1F－B　TEL(231)3300

スペイン風　**薔薇園**
生田区東門筋東門ヴィレッジB1
TEL 331－0708

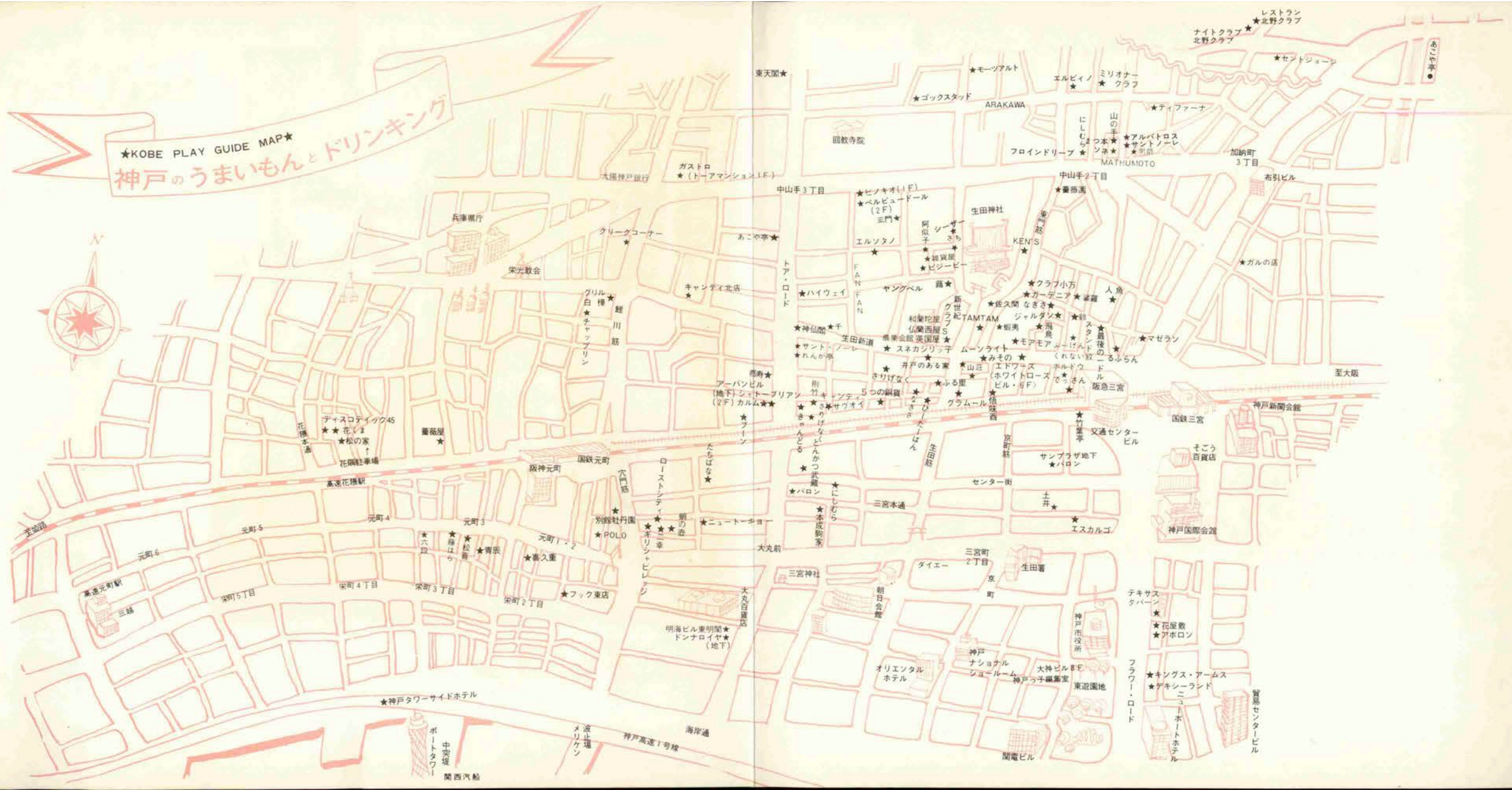
snack　**MORE MORE**
神戸市生田区中山手通1丁目107
TEL 391－4162

スナック　**山荘**
神戸市生田区北長峡通1丁目22
TEL 391－5823

スタンド　**紋**
神戸市生田区北長狭通1丁目41－1レンガ筋
TEL 331－8858

★KOBE PLAY GUIDE MAP★

神戸のうまいもんとドリンキング



balon antique series

XVI パサバチャ

中村百合子
〈画家・行動美術〉

「トルコのイスタンブールへ行くと、街角でこの優雅な水パイプでプカプカ煙草を吸っているのを見かけるのですがとってもものんびりと人間らしい。前にある純金で彩られたパサバチャのグラスセットは、トルコの友人が贈ってくれたもので大変豪華なそれでいてファンタステックなアラビアンナイトを想い出させる美しさです。

二年間ヨーロッパを廻って各地に友人ができ、その土地の想い出がこもる品をみるとまた出かけたい衝動にかられますね」

〈トアロードバロンにて〉
カメラ／藤原保之

バロン

★英国風喫茶・レストラン　三宮さんプラザ店
TEL 391－1758　AM11：00～PM 9：00迄

★コーヒーショップ　トア・ロード店
TEL 391－1210　AM10：00～PM 9：00迄

★コーヒーショップセンター街店
TEL 391－1375　AM10：00～PM 9：00迄

Please Music

ソネが大きくなりました

神戸のたのしさを

神戸らしい店を

神戸に音楽を

神戸に希望を

神戸にしあわせを

神戸のみなさまにおくる

レストラン ソネ

ファッション神戸をめざして

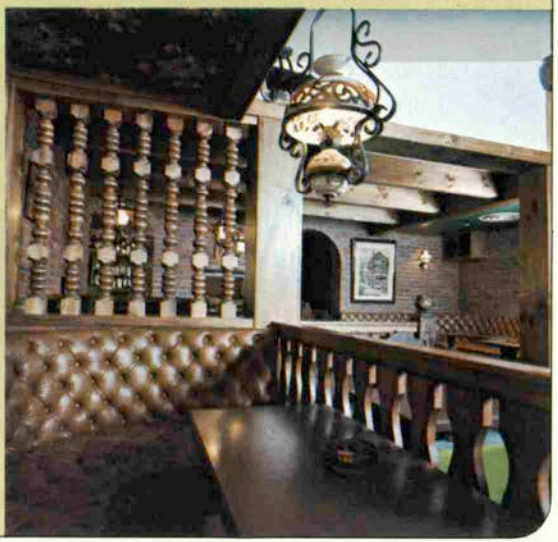
KOBE NIKKEN

店舗デザイン・美術建築

株式会社

神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目1
PHONE(078)251-3525(代)



ナイト・スポット
RESTAURANT SONE
神戸市生田区中山手通1丁目35　TEL（078）221－2055・7009
GRETSCH

中国の美酒美味そろった〈楊貴妃〉楽し

エキゾチックな神戸にふさわしい中国酒家〈楊貴妃〉は、中国ムードあふれる落ちついた品のいい室内で、美しいチャイナドレスで美酒を、また非常に繊細な味の北京料理をさし出してくれる。オーナーの潘式舜君が夫婦そろって一生懸命なので気持がいい。まだ若い潘君は、店舗の経営や企画・設計・施工また、コンサルタント、中国工芸品衣料雑貨の輸入直売を総合デザインルームBANとしてスタートさせるそうで、そのアイデアと意欲に、何が生れるか楽しみだ。

石野　成明〈石野証券社長〉

●設計施工／総合デザインルームBAN・設計協力／大丸装工部

中国酒家

楊貴妃

潘　式　舜

神戸市生田区下山手通2丁目30
永晃ビル4F　☎321－1973
P.M.6：00～A.M.2：00　日曜休み

忘年会及び新年会のご予約承わります（10名様まで）　25000～40000円
11月15日に姉妹店中国装飾設計公司（中国風装飾設計・中国家具工芸品輸入直売）がオープンしました。

中突提。
朝靄をぬって船が入る。
はく息は白く、冷気が身に沁みる。
午前５時30分――
熱い珈琲が欲しいとき。

港を訪れる人々に
気軽に立ち寄って
やすらぎを感じていただけるように
そんな気持ちで
この店をつくりました。

かもめのハクサン（中突提）／設計・施工 丸和建築デザインルーム

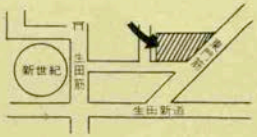
MARUWA
丸和建築
デザインルーム
神戸市生田区北長狭通５丁目22－２
☎(078)(341)5380・5538・5539

Merry Christmas!

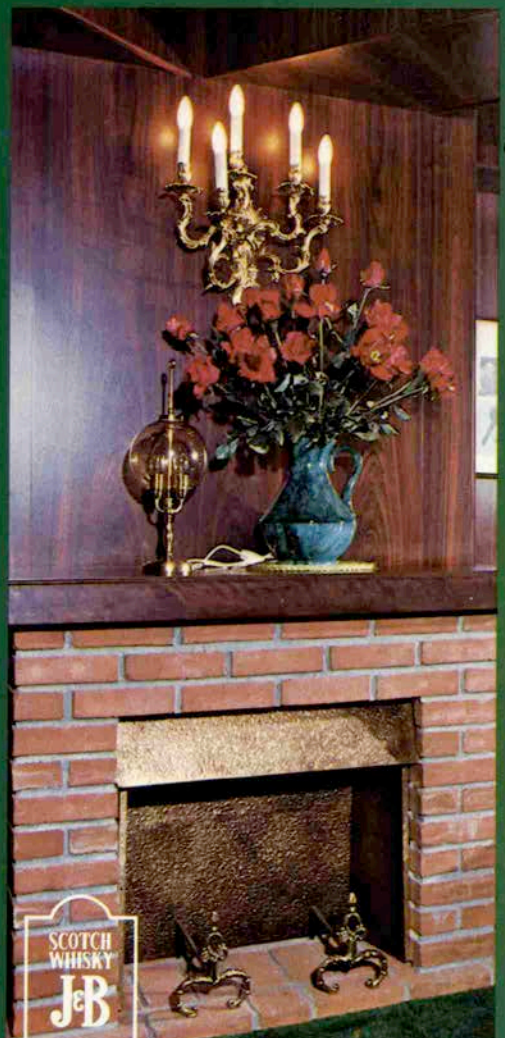
クリスマスは
リラックスなくらぶ佐久間で
おすごしください

くらぶ
佐久間

ママ　米田陽子



神戸・生田区
東門筋ゼウスタウン3F
Tel.321－2226～7
年中無休
P.M.6：00～P.M.11：00



Merry Christm

and a Happy N

クリスマスを
楽しく
お過し下さい

ALBA RO

The salon of selected

SNACK アルバト

神戸市生田区中山手通1丁目24一
ダイワナイトプラザIFB TEL (

DRINK & SNACK
スネカジリッ子

生田区下山手通２丁目30
永晃ビル地階
☎ 391－8708

DRINKING IS AN ART OF LIFE
WOODHOUSE

生田区中山手通１丁目36
山内ビル
☎ 241－7320

MERRY CHRISTMAS

スタンド 紋

生田区北長狭通１丁目
41－１レンガ筋
☎ 331－8858

restaurant
ダリア

三宮ビル南館地下１階
（そごう別館）
☎ 251－7808

★こがらしの季節です。でも、ここ、**"スネカジリッ子"**は暖炉の火も赤々と、楽しさと暖かさがいっぱいです。真ッ白な壁の小っちゃな教会から、澄みきったミサの歌声が流れだし、夜空の星たちが、地上へキラキラと祝福をおくっている——そんな童話の世界をふと夢見たりするのも"スネカジリッ子"の雰囲気のせいでしょう。何となくあわただしい冬の一宵、こんなときこそゆったりとくつろぎたいもの。カウンター越しにいつもの店の連中の顔をみてホッと安心(?)したり、奥のボックス席で気の合った仲間とダベったり、"スネカジリッ子"はキミのためにあるのです。さあ、今宵も"スネカジリッ子"へ!

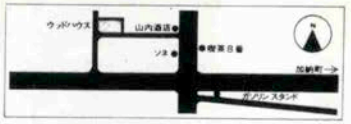
☆水割G&G ¥300　ビール(小) ¥250　おつまみ ¥100
ビッツァ ¥350　ミニチュアビン(W) ¥500
5：30P.M.～1：00A.M.　第1・第3月曜日休み

スネカジリッ子

★12月2日。私が中山手通りを散歩していると、新しいお店があるではありませんか……。ちっちゃな入口ですが、中に入ってみると、それは粋なお店。名前は**ウッドハウス**といってNOWなの!! お店の人は男ばかりですが、親切で、すごくおもしろいこと。それと外国の人たちもいっぱいで、さすが神戸って感じです。音楽好きの私が一番気に入ったのはギターを弾いて歌ってる「チャーリー」。日本語がペラペラの外人さん。「明日に架ける橋」をリクエストしたら、ニッコリ笑ってOKしてくれて、ピアノバーに座ってうっとりききました……。明日は彼と一緒に来るつもりヨ。それにもう一つ、昼は11時30分から喫茶店として営業しているとか。

☆昼(A.M.11：30～P.M.7：00) コーヒー¥150　紅茶¥150　ピラフ¥250
スパゲティ¥250　夜(P.M.7：00～A.M.4：30)ビール(小)¥250　水割り(OLD)¥350　フィズ¥400　おつまみ¥100　平日A.M.11：30～A.M.4：30　日曜P.M.5：00～A.M.0：00　第1・3日曜日休み

ウッドハウス



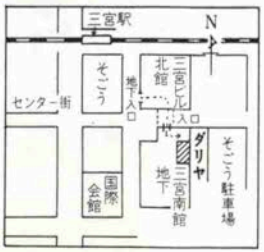
Merry Christmas

スタンド"紋"

★生田新道山側を東へ歩いて、レンガ筋をチョット入った左側。そこが**スタンド"紋"**です。クリスマスが近づくと、ケバケバしく飾り立てる店があちらこちらと目につくのですが、スタンド"紋"はいつもの飾らない素顔のまま、心のこもったサービスで喜こんでいただこうと、店のメンバーは張り切っています。コートの襟を立てたまま扉を開けると、やれやれと一息つけ、何となく心が安まり、店のメンバーとの楽しいおしゃべりのうちに、おや、もうこんな時間かと、ときのたつのが速く感じられる、そんな店がスタンド"紋"なのです。

☆フィズ¥400　ビール(中)¥400
6：00P.M.～1：00A.M.　第2・第4日曜日休み

ダ リ ア



★シックなムードと落ち着いた雰囲気のレストラン**"ダリア"**は本格的なフランス料理の楽しめる店だと食通の方々に喜こばれています。これからはクリスマスパーティーや忘年会のシーズン。"ダリア"では御予算に応じた出張パーティを承っており、人数によっては店を貸切りで使っていただいています。また、クリスマスには特選のオードブルも用意しております。これからはカキのおいしいシーズンです。フランス風のカキ料理を各種ご注文によって調理いたします。また、"ダリア"のステーキは手頃な値段の上、ボリュームもたっぷり、と好評をいただいております。冬の夜、"ダリア"であたたかなお食事をお楽しみ下さい。

☆11：00A.M.～9：00P.M.(ディナータイム5：00P.M.～)
木曜日休み